

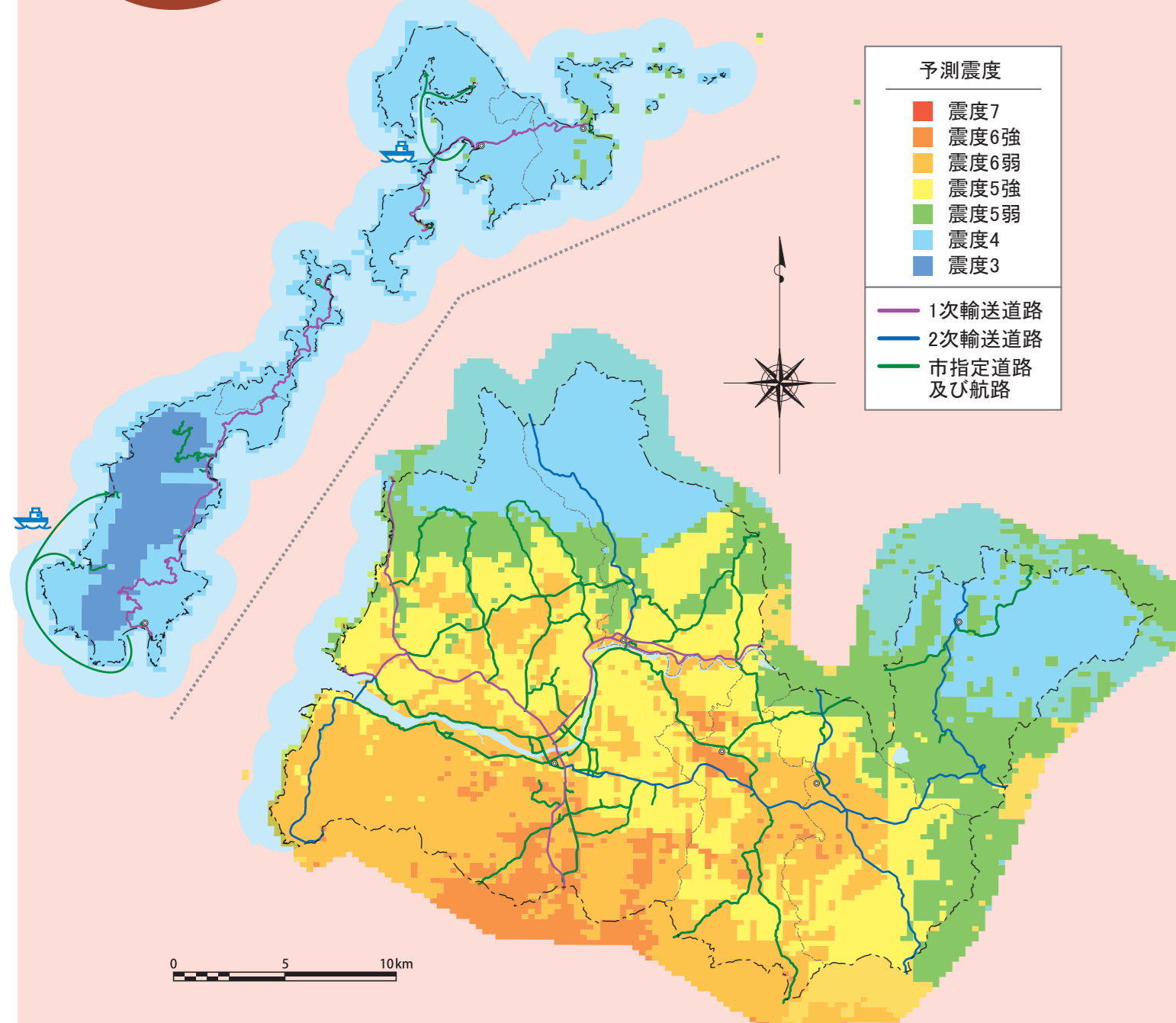
揺れやすさマップ

想定地震による予測震度分布

揺れやすさマップ
その2

市来断層帯(市来区間)による地震を想定

市来断層帯に近い市の南部ほど、想定震度が大きくなる(最大6強)と予想されています。



震度とゆれの状況

<p>0 [震度0] 人は揺れを感じない。</p>	<p>1 [震度1] 室内で静かにしている人の中には、揺れをわずかなを感じる人がいる。</p>	<p>2 [震度2] 室内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。</p>	<p>3 [震度3] 室内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p>
<p>4 [震度4] ほとんどの人が驚く、電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。座りの悪い置物が、倒れることがある。</p>	<p>6弱 [震度6弱] ●立っていることが困難になる。●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることもある。●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。</p>		
<p>5弱 [震度5弱] ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。●棚にある食器類や本が落ちることがある。●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。</p>	<p>6強 [震度6強] ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多い。●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多い。●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。</p>		
<p>5強 [震度5強] ●物につかまらなると歩くのが難しい。●棚にある食器類や本で落ちるものが多い。●固定していない家具が倒れることがある。●補強されていないブロック塀が崩れることがある。</p>	<p>7 [震度7] ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。●耐震性の高い木造建物でも、まともに傾くことがある。●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多い。</p>		

この表は、ある震度が観測された時に、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。詳しい解説は以下の気象庁ホームページに掲載しています。気象庁震度階級関連解説表 <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/shindo/kaisetsu.html>

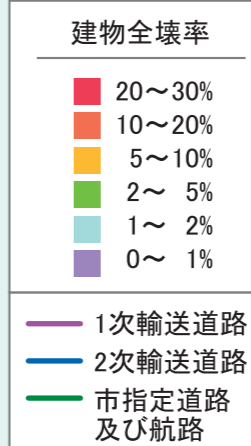
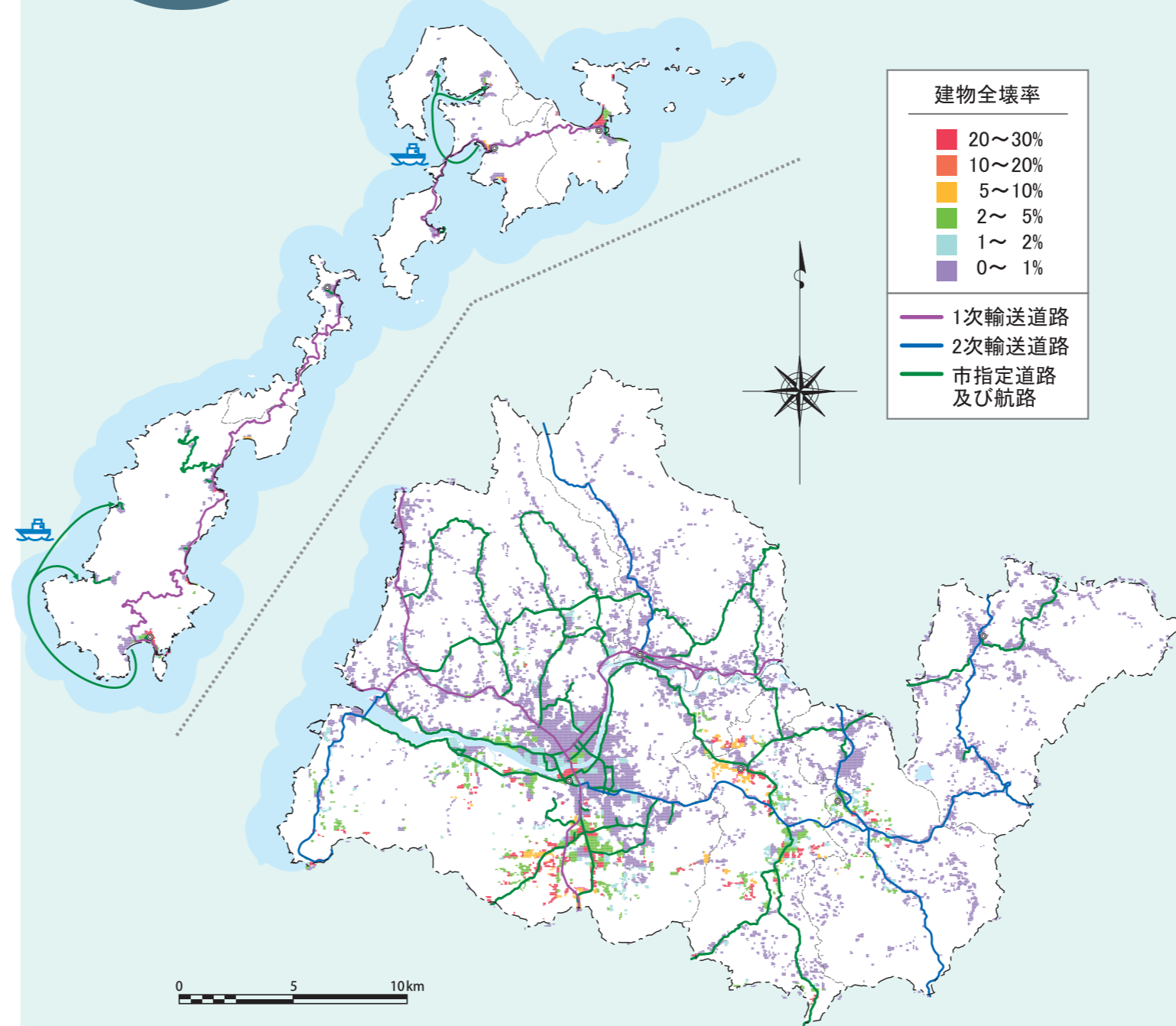
気象庁資料

地域危険度マップ

(建物全壊棟数率)

地域危険度マップ
その2

市来断層帯(市来区間)による地震を想定

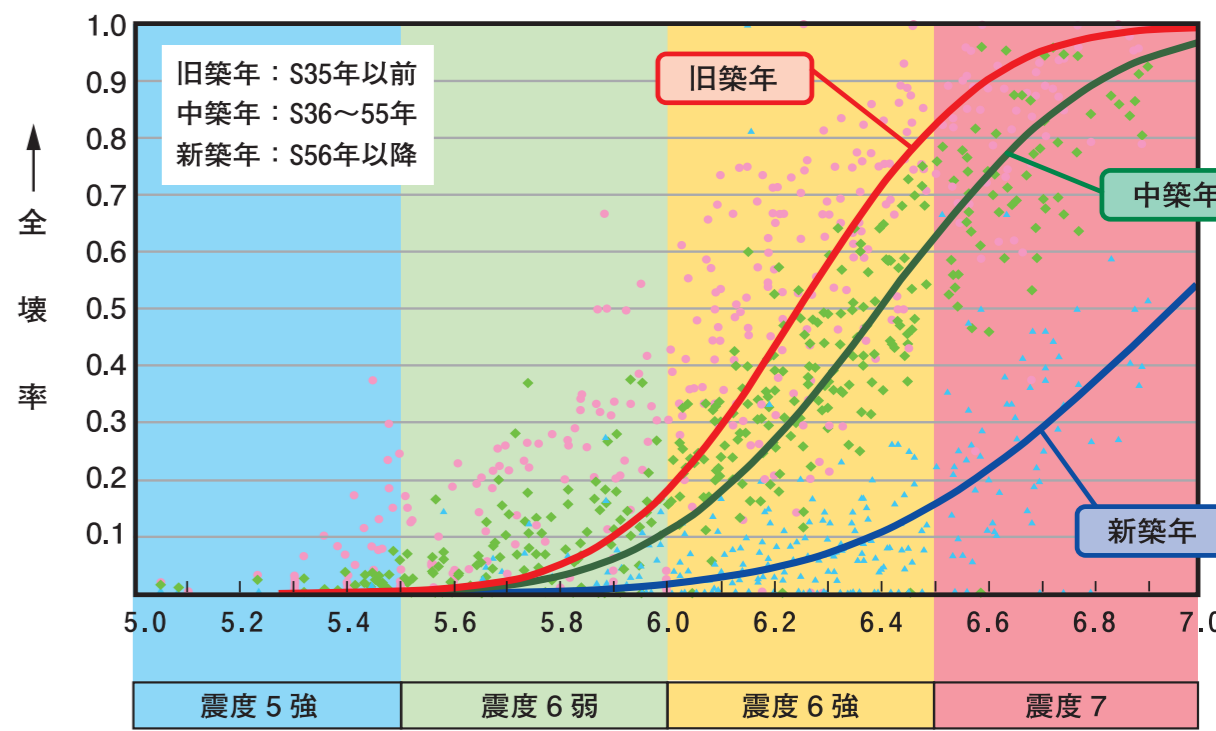


この「地域危険度マップ」では、揺れやすさマップで示した揺れが発生した場合に予想される建物全壊率を指標にして、地域の危険度を表しました。

建物の倒壊の要因は、建物の構造や建築年代の違いによる建物の耐震性の有無と揺れの大きさにあります。予測震度が高い地域や、耐震性が低いとされる昭和56年以前の建物の割合が多い地域では、地域危険度が高くなっています。

建物全壊率は最大で20%強と予想されます。この地図をご覧ください。ご自宅やご自身がよく行く場所の耐震性について考えてみてください。

木造建物の全壊率テーブル



内閣府「東南海・南海地震防災対策に関する報告書」より

阪神淡路大震災で被災した西宮市の木造建物の全壊率から、震度6強以上になると全壊率が急上昇することが分かっています。

避難する場合には…

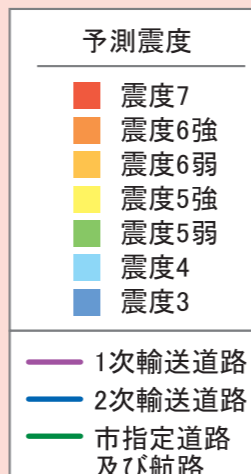
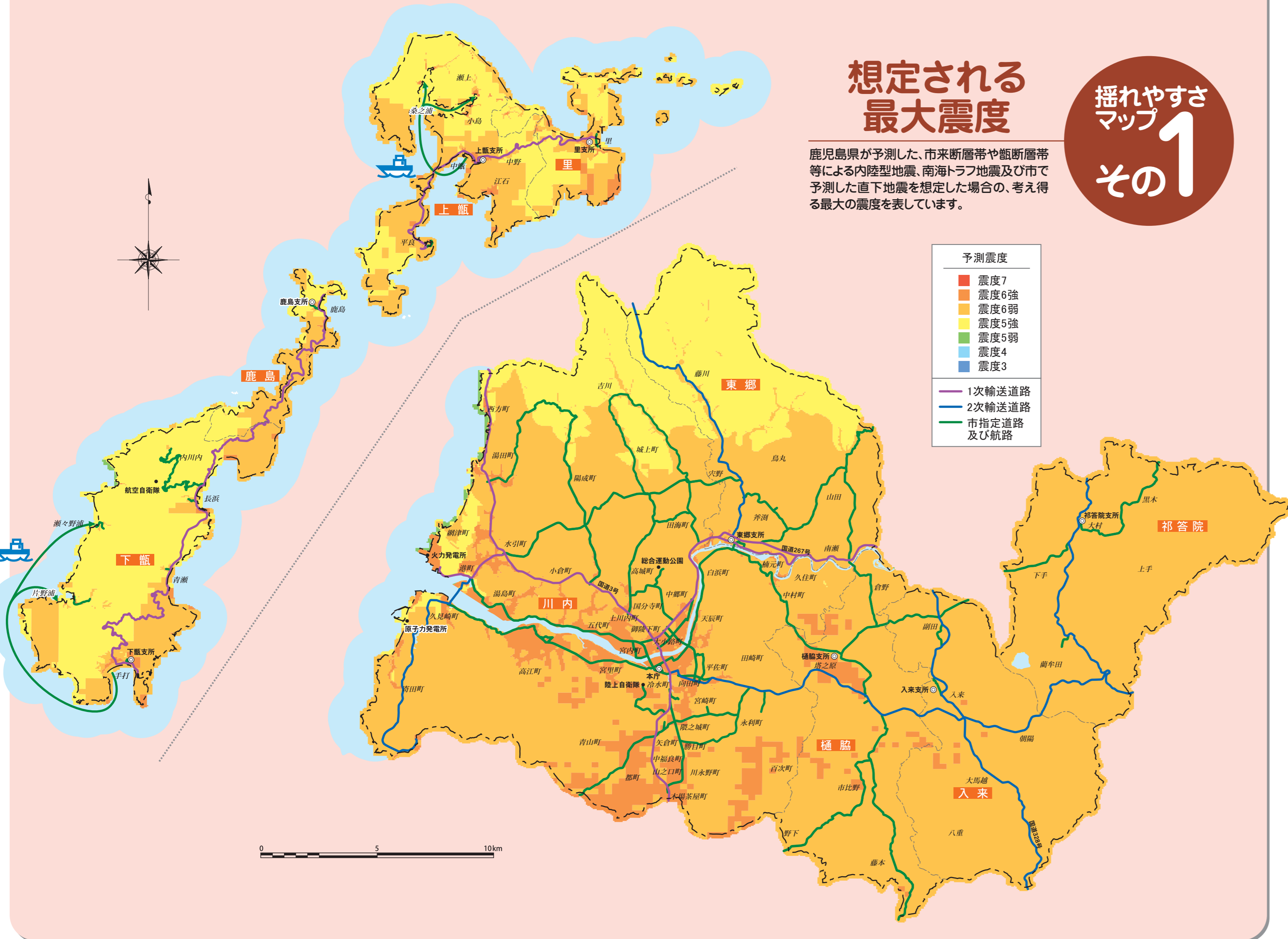
危険箇所には近づかないようにしましょう。地域に潜む危険を認識し、被害の軽減に努めましょう。避難所や避難方法を話し合っておきましょう。実際に家から近くの避難所まで歩いてみて、道筋や危険箇所などの確認をしておきましょう。火災や土砂崩れなどの災害が発生する可能性もあります。避難の際には、注意しましょう。



想定される最大震度

鹿児島県が予測した、市来断層帯や断層帯等による内陸型地震、南海トラフ地震及び市で予測した直下地震を想定した場合の、考え得る最大の震度を表しています。

揺れやすさマップ
その1



想定される最大震度より算出

※鹿児島県による震度予測と直下地震を想定した場合の、考え得る最大の震度を基に算出しました。

地域危険度マップ
その1

